

芦屋町歴史民俗資料館（芦屋歴史の里）
芦屋歴史の里移転開館 20 周年記念特別展
「妖怪！百鬼夜行～海にひそむもののけたち～」
開催期間：2024 年 7 月 13 日（土）～ 2024 年 9 月 16 日（月）



【企画展の内容・目的】

- 芦屋町は、海にまつわる伝承や妖怪、漁師に伝わる信仰などのテーマが豊富である。本特別展では、芦屋町に残る海の妖怪・伝承を中心に楽しく、わかりやすく紹介することで、こどもから大人まで幅広い世代の芦屋の海や歴史への興味・関心を高め、理解の促進を図ることを目標とする。
- 特別展に関連した各種イベントを開催することで、老若男女問わず幅広い世代の来館を促す。また、クイズラリー等のイベントによって、若い世代の地域の海への関心を高めるとともに、港町として栄えてきた芦屋の歴史への理解を深めることを目的とする。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2024 年 7 月 13 日（土）～ 2024 年 9 月 16 日（月）

■開催場所：芦屋町歴史民俗資料館 多目的室

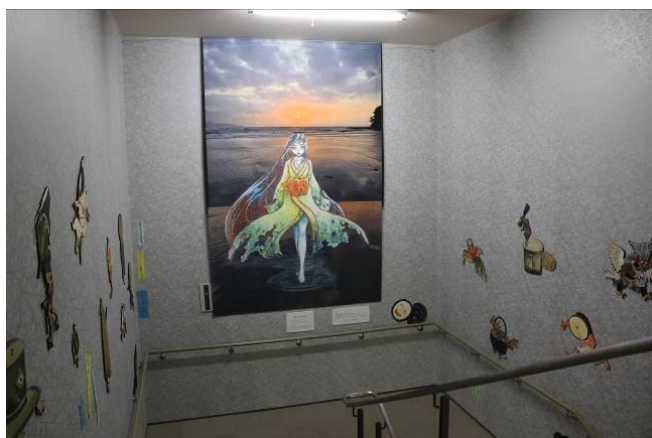
■入場者数：1,921 人



芦屋町歴史民俗資料館 外観



会場 入口



うみおんな イメージ



展示室前

特別展「妖怪！百鬼夜行～海にひそむもののけたち～」は、芦屋町歴史民俗資料館の移転開館 20 周年の記念事業として開催した。芦屋町に残る海にまつわる様々な伝承や妖怪を主なテーマとして展示を行った。

特別展展示室に向かう階段には、響灘沿岸（芦屋町及び宗像市大島）の漁師に伝わる伝承である妖怪うみおんなのイメージを作成し、百鬼夜行絵巻に登場する妖怪とともに展示した。海の妖怪やもののけへの興味関心を引き出す導入部とした。



はじめに



ユウレイセン

前半部では芦屋と海をテーマに、源平合戦最後の戦いである壇ノ浦の戦いに出陣した山鹿水軍を含めた平家の亡霊、芦屋厳島神社の女占い師、芦屋沖に沈んでいった船とユウレイセンなど、海とつながりの深い伝承を紹介した。船の模型を使いながら、ユウレイセンをイメージしやすいように工夫を行った。これらの伝承を通して、海への畏怖を感じてもらうとともに、海を大切にするきっかけとした。



百鬼夜行絵巻



河童の詫び状



ぬりかべ



キツネの伝承

芦屋の海岸にあらわれるというぬりかべ、海岸沿いに広がっていた三里松原に残るキツネに化かされた伝承など、芦屋の海岸地域のさまざまな妖怪伝承を紹介した。妖怪の伝承を通して、海や芦屋の海岸への興味関心を高めるとともに、芦屋の海岸を大切にするきっかけとした。

【来館者の声】

- 海にまつわるもののけの展示、興味深く見ました。
- 芦屋沖に沈んでいた陶片の漂着物を現物で見られてよかった。
- ぬりかべや九尾のきつね、カッパなどの妖怪が、地元ゆかりであることがわかる展示、解説が面白かったです。
- 海はとてつもなく広いもの。いろんなことがおきても不思議ではない。海をきれいに大事にしたいものです。
- 海と人の生活の関係性の強さ、海があって人々の生活が成り立っていることを改めて感じました。海を渡る時のこわさも感じました。
- 幽霊船が壇ノ浦と関係があることを知り、芦屋の歴史も学びました。
- 海や川の移動にかけた労力や、昔の人々の工夫、人々が抱いた海に対する畏敬の念を感じました。
- 海は、自分たちだけのものではなく妖怪や、他の生き物もいて大切にしなければならぬと思いました。
- 海には、古くから人々の思いや歴史があるということを学びました。
- 芦屋町の歴史、人々が平家物語や妖怪などに関係していたことをはじめて知りました。
- 海女など芦屋の地名と合わせて親近感を持つことができました。
- 特別展で川舩や大型船、まよい船の模型が展示してあってよかった。
- 写真などでスケール感があって良かった。なかなか見る事のない貴重な物が見れて良かった。
- 水木しげる先生のぬりかべと違うぬりかべを見て、おもしろいと感じた。
- 伝説、伝承といったものが、現代に遺っていることへ思いをはせることができました。
- 三次もののけミュージアムに行きたいと思っていたので、その一部分を感じる事が出来て楽しめました。

2. 関連事業の内容

■歴史ボランティアガイド育成

【開催日時】①2024年4月6日（土）②5月11日（土）
③6月1日（土） 各日 10:00～11:00

【開催場所】芦屋歴史の里

【参加者数】①12人、②13人、③10人

【実施内容・目的】

- 芦屋町郷土史研究会の協力を得て、歴史ボランティアガイドを特別展来場者へ実施することを目指し、事前学習としてボランティアガイドの育成研修を実施した。研修を通して、芦屋町の海や妖怪に対する深い知識を持った人材を育成することを目標とした。
- 芦屋町の歴史において、海は重要である。今回の育成講座を通して、芦屋の海への関心を高め、今後継続的に海をはじめとする地域環境及び、歴史文化について継続的に発信する体制を整えることを目的とした。



講座実施状況①



講座実施状況②



講座実施状況③



講座実施状況④

特別展の内容にあわせた、海と妖怪に関する講座を3回実施した。「妖怪を学ぼう」、「妖怪の歴史を学ぼう」、「妖怪の名前を知ろう」の3つのテーマのもと、昔の人々の海や闇への畏怖の念、そしてその畏怖の念が妖怪の発生に深く関わっていることや、芦屋町に残る海にまつわる妖怪・伝承を学んだ。妖怪にまつわる伝承を通して、芦屋町の歴史における海的重要性について学び、理解を深めた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



ガイド実施状況①



ガイド実施状況②

特別展開催期間中には、歴史ボランティアガイド育成講座参加者に、来館者に対して、ボランティアガイドを実施してもらった。ボランティアガイドによる解説により、来館者とのコミュニケーションが生まれ、より海や妖怪への興味関心が高まり、理解を深めてもらうことができた。

【来館者の声】

- 芦屋と海は昔から生活に深く関わっていることがよくわかりました。
- 海への畏敬の念を感じました。
- 海に関連する妖怪についてもっと知りたいと思いました。
- 妖怪にまつわる話は面白いし、孫にも話したいです。海には未知の部分がたくさんあるので、学んでみたいと思いました。
- 海の妖怪展へ興味がわきました。柳田国男の妖怪談義を読んで勉強したいと思いました。
- 海も美しくなければもののけも現れてくれないでしょう。私たちは美しく豊かな海を後世に伝えていかなければならないと強く感じました。
- 海から「生」をいただくが、海で命を落とすこともあるので侮ってはいけないと感じました。
- 「海」に関する長い歴史の中で、芦屋の人々が海と暮らしてきた生活が、現代にも伝わってきていることをこれからも伝えていくことの意義を感じました。

■体験講座「化石探検」

【開催日時】2024 年 6 月 16 日（日） 9：30 ～ 11：30

【開催場所】堂山・洞山周辺

【参加者数】29 人

【実施内容・目的】

- 特別展前の事前学習の機会として、古代の芦屋の海や自然について知ってもらい、海への興味関心を高めるために化石探検を実施した。
- 芦屋を含む北九州地域には、芦屋層群と呼ばれる地層が広がっており、芦屋層群で発見された化石には、和名・学名に「アシヤ」の名がつくものが多く存在する。これらの化石の発掘を通して、海の生き物に対するこどもたちの興味関心を高めることを目的とした。



洞山 風景



洞山見学状況 1



洞山見学状況 2

洞山で見られる 3,000 万年前の地層を見学しながら、日本海の始まりである芦屋海、日本列島ができる前の地球の自然環境についての説明をおこなった。また、芦屋層群で見つかる代表的な化石である海鳥のプロトプテルムについて学びんだ。洞山の見学を通して、3,000 万年残る芦屋層群の重要性について学んだ。



化石探検実施状況 1



化石探検実施状況 2



化石探検実施状況 3



化石探検実施状況 4

古代の植物、貝、動物などの化石の発掘を通して、3000 万年前の芦屋にどんな生き物がいたのかを学んだ。3,000 万年前の地層が残る芦屋の海岸への興味関心を高め、芦屋の海岸・海を大切にする心を育て、海の学びにつなげた。

【来館者の声】

- 3000 万年前の地表から化石が発掘できて芦屋の海の歴史を感じました。
- 美しい海を後世に残していきたいと思いました。
- 3000 万年前にはいろいろな海のいきものがいたのだと思いました。
- 芦屋海を初めて知りました。
- ここがもともとは海に繋がっていたということを感じとることができました。
- 過去からのつながりを感じ、海や洞山の自然を守っていこうと思いました。
- フナムシを近くで見れたこと、つかまえたことが楽しかった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■ギャラリートーク（全3回）

【開催日時】①2024年7月20日（土）10:00～11:00
② 8月17日（土）10:00～11:00
13:00～14:00
③ 9月7日（土）14:00～15:30

【開催場所】芦屋歴史の里

【参加者数】①13人 ②39人 ③46人

【実施内容・目的】

- 特別展の展示に沿ってテーマを決定し、当館学芸員による展示解説を行った。芦屋町に残る様々な妖怪・伝承について、掘り下げた解説を行うことで、妖怪・海・芦屋のつながりを通して、海の学びにつなげた。
- 9月7日実施の第3回ギャラリートークでは、湯本豪一記念日本妖怪博物館名誉館長湯本豪一氏による記念講演を実施した。



第1回実施状況①



第1回実施状況②



第2回実施状況①



第2回実施状況②

第1回では、「神と仏と妖怪」をテーマにして、妖怪がどのように生まれていったのかについて解説した。芦屋の漁師が信仰する宗像三女神などの神話から展開し、昔の人々の海や闇への畏怖の念、そしてその畏怖の念が妖怪の発生に深く関わっていることを、神道や仏教を交えながら展示の解説を行った。

第2回では、「妖怪の歴史」をテーマにして、平安時代中期から伝えられる天狗や壇ノ浦の戦い後の平家の落ち武者の霊、芦屋の年中行事三里松原の寒施行などを取り上げ、展示の解説を行った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



第3回実施状況①



第3回実施状況②



第3回実施状況③



第3回実施状況④

第3回では湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）名誉館長の湯本豪一氏を講師に迎え、「地域の妖怪について」というテーマで記念講演を実施した。日本人にとって妖怪がとても身近な存在であることや、河童の伝承が全国各地に多く残っているのは水の神様としての信仰からきていることなどをわかりやすく講演いただいた。

【来館者の声】

- 昔から芦屋町と海の関係が非常に深く、庶民の生活も「妖怪」という得体の知れない物を通して自然の怖さを教えていたのだと思いました。
- 海の周りにもう少し行ってみたいと思います。
- 海は目に見えるものも見えないものも関係なく出入りする場所であると思いました。そして、歴史を変える場所になることが分かりました。
- 展示品だけでは興味を持てなかったこともくわしく説明を聞くと理解が深まりとても面白かったです。ありがとうございました。
- 湯本先生の地域の妖怪のお話をきけてよかったです。

■町内妖怪ツアーマップ

【開催日時】2024年7月13日（土）～9月16日（月）

【開催場所】芦屋歴史の里

【参加者数】585人

【実施内容・目的】

- 特別展の中で紹介した、芦屋町内に残る妖怪にまつわる場所や怪異伝承の残る場所を案内するマップを作成する。マップを配布することで、多くの人に町内各所の妖怪スポットに関心を持ってもらうと同時に、実際の場所や建物へ足を運んでもらうきっかけとする。
- 町内妖怪ツアーマップを通して、芦屋町の地域や海への興味関心を高め、特別展の展示内容に対する理解をより深めてもらうことを目的とする。



特別展で取り上げた妖怪や怪異伝承の残る場所を紹介する芦屋町妖怪マップを作成した。芦屋の海岸地域をはじめとした実際の場所に足を運ぶことで、海にかかわる信仰や伝説をより体験的に学ぶことができる機会を創出した。

【来館者の声】

- 妖怪マップとてもよかったです。かわいいデザインで興味がわきました。
- こんなにたくさん芦屋に妖怪がいるとは知らなかった。身近に感じることができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■妖怪 クイズラリー

【開催日時】2024年7月13日（土）～9月16日（月）

【開催場所】芦屋歴史の里

【参加者数】417人

【実施内容・目的】

- 中学生以下のこどもを対象に、芦屋の海や歴史に関するクイズラリーを実施した。クイズラリーを実施することで、こどもたちの来館を促すとともに、クイズを楽しみながら、海や芦屋町の歴史を学ぶことを目標とした。
- クイズラリーの参加者には、クイズラリーの解答解説を盛り込んだ学習プリントや、ぬりかべなど芦屋にゆかりのある妖怪をデザインした景品を配布することで、芦屋の海と歴史への興味関心及び理解を深めることを目的とした。



実施状況①

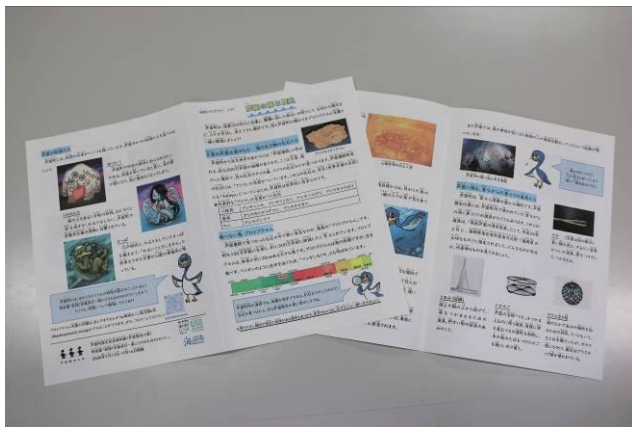


実施状況②



実施状況③

芦屋町の歴史の中から、海に関連する問題を出題することで、海とともに発展してきた芦屋町の港町という地域性、漁業、商業など様々な面で海によって生活が豊かになってきたことから、私たちの生活において、海がどれだけ大切なものなのかを学び、海を大切にするきっかけを与えた。



解説小冊子



ステッカーシールとぬりえ

クイズラリーの参加者には、クイズの問題と対応することも向けの解説小冊子および芦屋にゆかりのある妖怪をデザインしたステッカーシールとぬりえを配布した。小さな子どもでも芦屋町と海の歴史に興味関心が持てるように、可愛いイラストや写真を多く使用することで、子どもたちの記憶に残りやすく、継続的に海と歴史を学べるように工夫を行った。

【来館者の声】

○海には妖怪がたくさんいるけれど、けっして悪い物だらけではないと知れました。海女と磯女のイラストがすてきでした！

○海がいままで、たくさんの人たちによって守られてきたことがわかり、次は、私たちが守っていく番だと感じました。

○船が沈没する位置などくわしく知れて、頭が海でいっぱいになりました。

○海の町としての芦屋に、より魅力を感じました。次に海に行った時は、昔の人の暮らしを想像しながら見てみたいと思いました。

○やっぱり海は人だけでなく妖怪もひきつけてくるんだなと思いました。

○昔の漁業の道具などを実際に見る事ができ、漁業のしかたや今と比べての事を学びました。

○妖怪の絵がおもしろくて、たのしかったです。

○海の妖怪のことがしれておもしろかったし、すこし海のことが知れてよかったです。

○海は大切に、みんなの物ということがわかりました。これからも海を大切にしていきたいなと思います。

【事業全体のまとめ】

●北部九州沿岸に位置する芦屋町は、東は奇岩景勝の磯からなる海岸線、西は白砂青松のなだらかな海岸となっており、この海岸線を含めた豊かな自然や港町として発展した歴史が、町の大きな魅力である。芦屋町は、海にまつわる伝承や妖怪、漁師に伝わる信仰等、海のテーマに事欠かない。特別展では、「妖怪」をテーマとし、来館者の興味を喚起し、幅広い年齢層の方が芦屋町と海の歴史を学べる場を提供した。

●特別展では、湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）より、貴重な妖怪資料を借用・展示することができた。借用資料の展示を通して、来館者の妖怪への興味関心を引き出すことができた。ぬりかべの立体造形模型は、芦屋町に残る海にまつわる妖怪・伝承への理解を深めるきっかけとなった。

●特別展期間中には、ギャラリートークを3回実施し、より芦屋の海や妖怪の理解を促すことができた。また、ギャラリートーク第3回では、湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）名誉館長湯本豪一氏を講師に迎え、記念講演を実施することができた。湯本氏の講演により、地域の妖怪についての理解を深めることができた。

●特別展の期間中、芦屋の歴史や海に関する子ども向けのクイズラリーを実施した。子どもたちの来館を促し、楽しみながら芦屋町の歴史と海について学ぶ機会を提供した。また、芦屋にゆかりのある妖怪をイラスト化し、クイズラリーの景品とすることで、より妖怪や海に関心を持ってもらうことができた。

●芦屋町郷土史研究会と連携し、歴史ボランティアガイドの養成講座および特別展の展示ガイドを実施した。日頃から町の歴史に興味関心を持っている郷土史研究会員に、より芦屋の海と歴史への理解を深めてもらうことができた。また、今回のボランティアガイドをきっかけに、海を含めた地域環境、歴史・文化の継続的な発信体制を整えることができた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 湯本豪一記念日本妖怪博物館 （三次もののけミュージアム）	展示資料借用、記念講演
2. 善福寺	展示資料借用
3. 芦屋町郷土史研究会	ボランティアガイド育成講座、ガイド協力
4.	
5.	

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 西日本新聞	「妖怪『ヌリカベ』福岡・芦屋にいた？ 柳田国男の著書に記述、町歴史民俗資料館が企画展」2024年7月12日
2. 毎日新聞	「芦屋ゆかりの妖怪紹介 町歴史民俗資料館『迷い船』資料など100点」2024年8月3日
3. NHK 北九州放送局	「妖怪をテーマにした展示会 にぎわう 芦屋町 芦屋歴史の里」2024年8月7日
4. 読売新聞	「芦屋に残る妖怪伝承 歴史民俗資料館 絵巻など100点」2024年8月14日
5. TNC テレビ西日本	「狢犬のような『ぬりかべ』が行く手を阻む…地元に伝わる『妖怪』が一堂に 史料 100 点を展示 福岡・芦屋町」2024年8月16日

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいできません。